

1 主要な施策の成果の概要

令和7年度は、令和7年4月に市制施行70周年を迎えたことから、多岐にわたる記念事業を実施する中で、市制の節目を祝い、明るい未来を展望しつつ、多彩な市の魅力を市内外に広く発信しました。

また、京王線地下化と連動した中心市街地の都市基盤整備の核となる調布駅前広場が完成するという大きな節目を迎え、地域交流の拠点として誰もが便利で安全・安心に利用できることに加え、市民が集い、憩い、楽しむことができる貴重な都市空間が確保されました。

このような中、引き続き、市民の安全・安心の確保と市民生活支援を市政の第一の責務とする中で、長引く物価高騰に伴う市民生活や市内事業者への影響を踏まえ、国や東京都の施策と連動した取組と併せて、市独自の対策を講じるなど、市民生活に安心感をもたらすとともに、地域経済の活性化につなげました。あわせて、現行基本計画の3年次目として、基本構想に掲げたまちの将来像「ともに生き ともに創る 彩りのまち調布」の実現に向け、計画に位置付けた5つの重点プロジェクトを基軸に、施策の推進、成果向上の4つの視点を踏まえた各施策・事業の推進に取り組みました。

「市民の安全・安心の確保と市民生活支援」については、災害対応能力の向上や防犯対策の充実に向けた取組を推進するほか、日常生活において様々な困難を抱える市民に寄り添い、個々の状況に応じたきめ細かな支援などに取り組みました。

「共生社会の充実」については、東京2025デフリンピックの開催を契機とした、「調布市デフプログラム」の実施など障害理解の更なる促進のほか、新たに中学生を対象とした教育支援センター「CANVAS」を開設するなど、多分野にわたり、全ての市民が分け隔てられることなく、一人一人の個性が尊重される暮らしやすいまちづくり

に向けた取組を進めました。

「共創のまちづくり」については、参加と協働によるまちづくりの更なる充実・発展を図るため、企業や大学、NPO法人等の多様な主体と連携する中で、地域課題の解決に向けた事業展開を図りました。

また、市としての「共創」の概念を改めて整理するとともに、共創により目指すまちのありたい姿や、その実現に向けた各主体の役割整理など、共創のまちづくりの更なる推進を図ることを目的とする「調布市みらい共創ビジョン」の策定に向けた取組を進めました。

「魅力に満ちたまちづくり」については、東部地域における京王線連続立体交差事業に向けた取組を進めたほか、文化芸術、スポーツ分野での多岐にわたる事業の推進、地域資源を生かした産業・観光振興による地域経済の活性化などについて、関係団体等と連携しながら取り組みました。また、豊かな自然環境の保全・活用に加えて、ゼロカーボンシティ調布の実現を目指し、市民と共に地球温暖化防止に向けた取組を進めました。

これらの取組と併せて、基本計画の分野別計画に位置付けた各施策・事業を着実に推進していくため、行革プラン2023に基づき、幅広い市民参加や多様な主体との連携による共創などの「参加と協働のまちづくり」及び、デジタル技術の活用によるサービス向上や事務の効率化、簡素で効率的な組織体制づくり、健全な財政運営、ファシリティマネジメントなどの「効果的・効率的な行財政運営」の市政経営における2つの基本的な考え方に基づく取組を進めました。

令和8年度は、現行基本計画の最終年次に当たることから、行政評価を通じた各施策・事業の振り返りや、市政を取り巻く様々な状況を踏まえ、次期基本計画の策定に取り組めます。